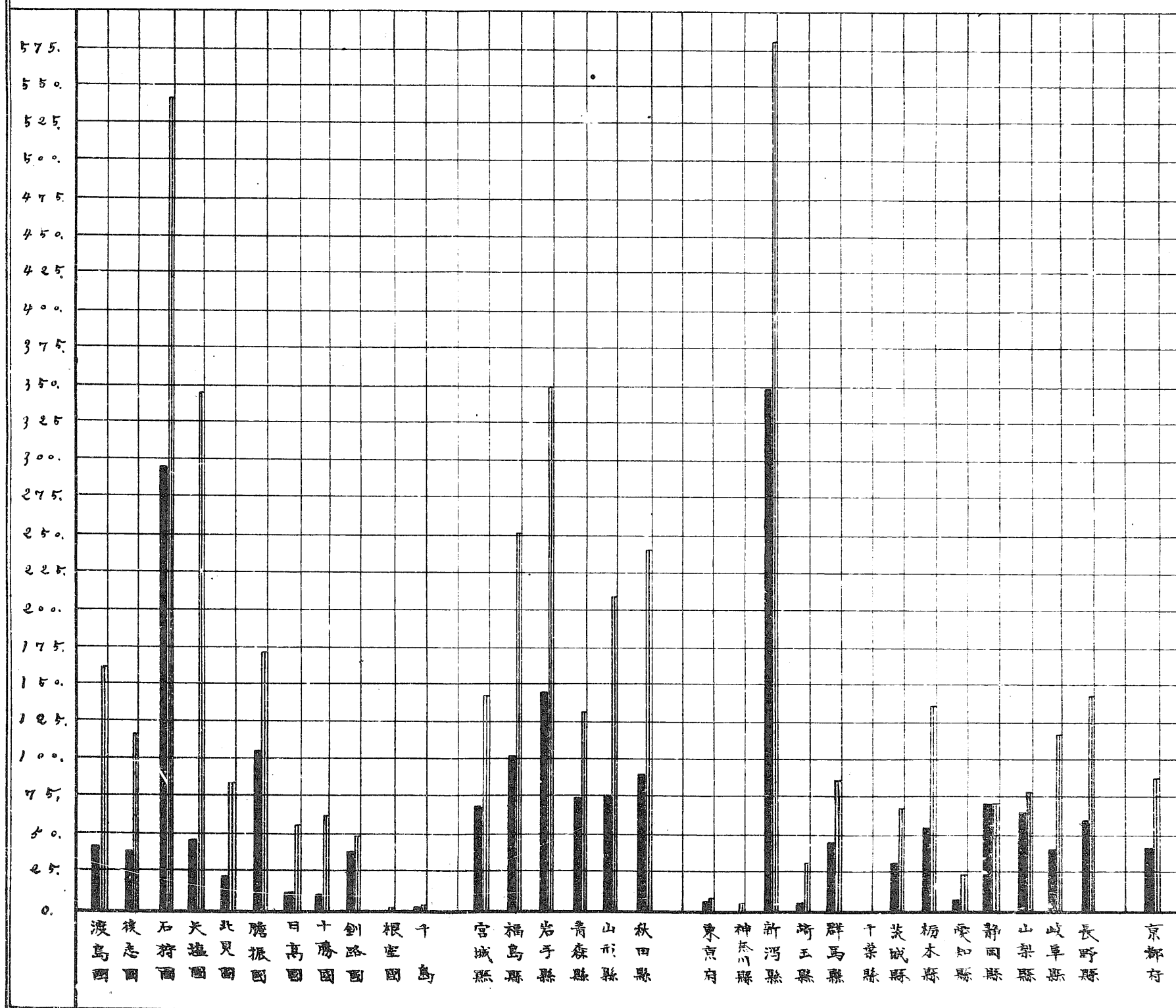


321  
39

明治三十三年  
本邦礦業ノ趨勢

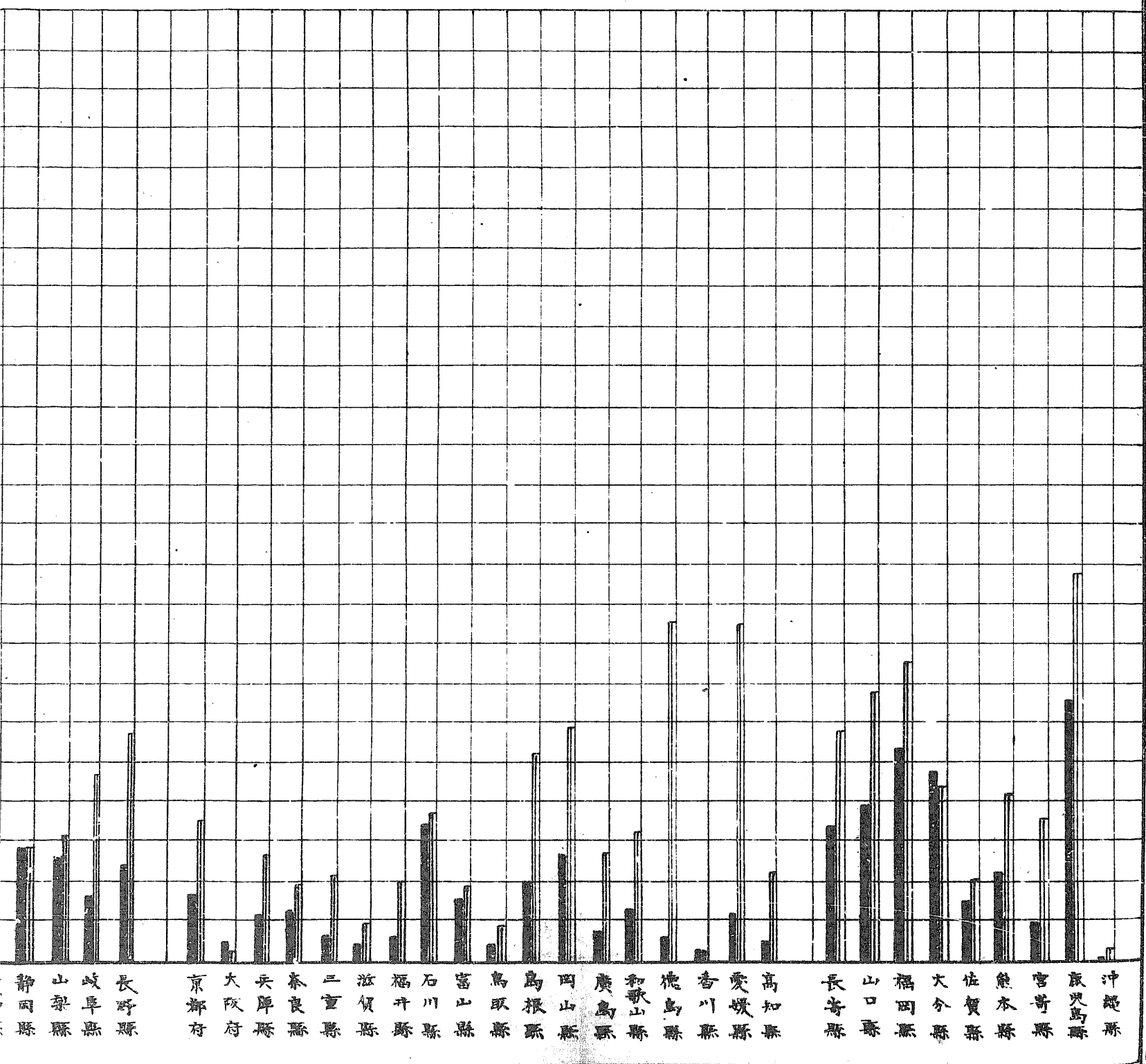
明治三十九年中 試掘、採掘、砂鑛採取 地方別出

三十八年  
三十九年



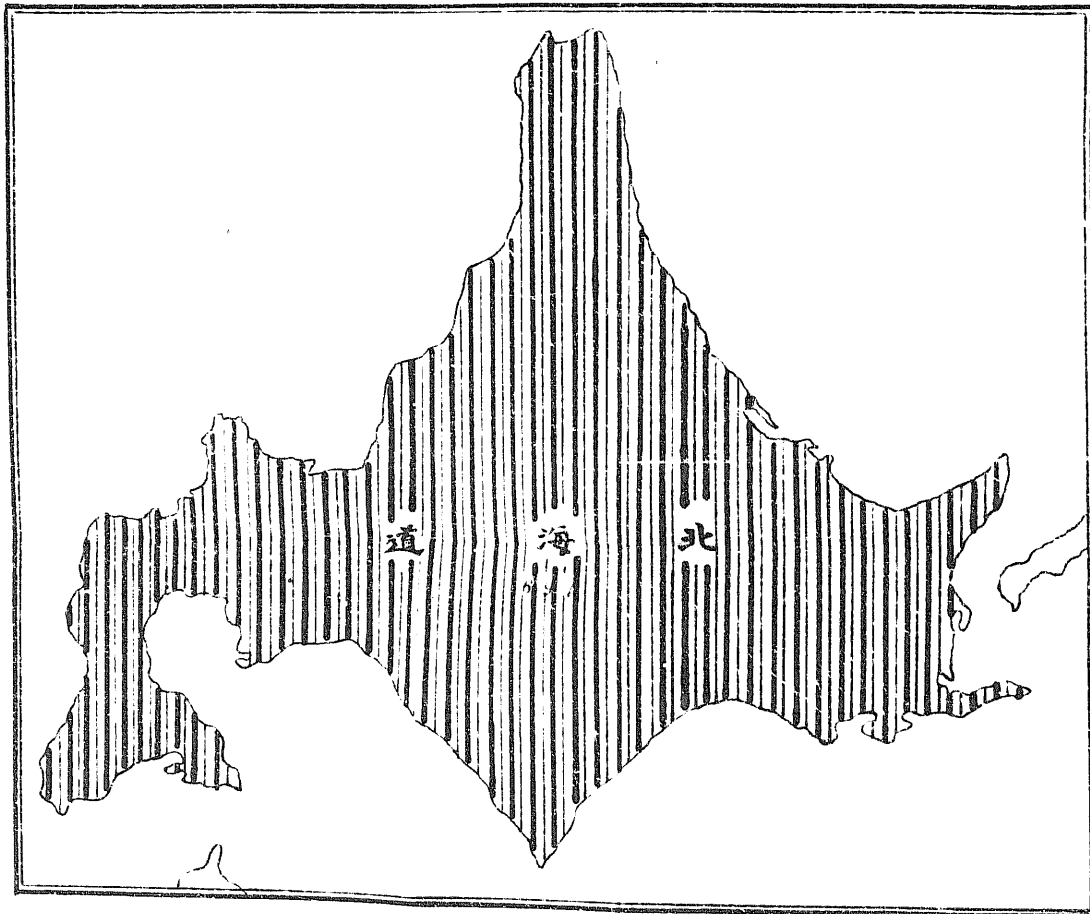
分割撮影

東京地方別出願件数並前年との比較表

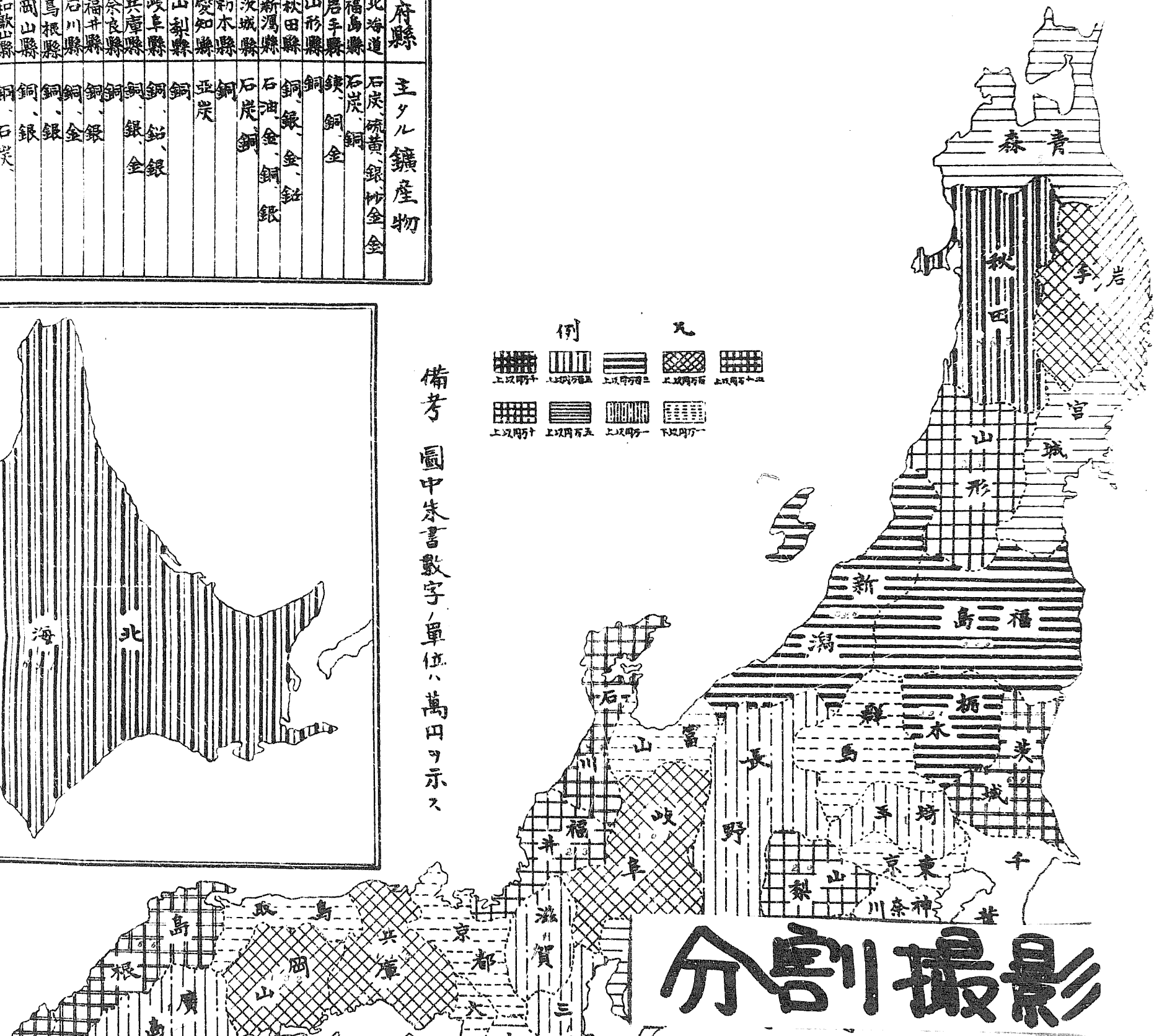
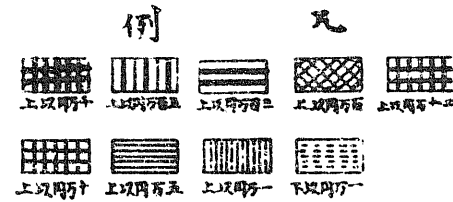


# 鑛產額地方別比較 (明治三十三年)

府縣	主タル鑛產物
北海道	石炭、硫黃、銀、砂金、金
岩手縣	鐵、銅、金
山形縣	銅、鐵、金、鉍
秋田縣	銅、鐵、金、鉍
新潟縣	石炭、金、銅、銀
茨城縣	石炭、銅
栃木縣	亞炭
山梨縣	銅
岐阜縣	銅、鉛、銀
兵庫縣	銅、銀、金
奈良縣	銅、銀
和歌山縣	銅、銀
鳥取縣	銅、銀
岡山縣	銅、銀
德島縣	銅、石炭
高知縣	銅、安質母尼
長崎縣	石炭、金
山口縣	石炭、銅
福岡縣	石炭、金
大分縣	金、硫黃
佐賀縣	石炭
熊本縣	銅、石炭
宮崎縣	銅
鹿児島縣	金、銀



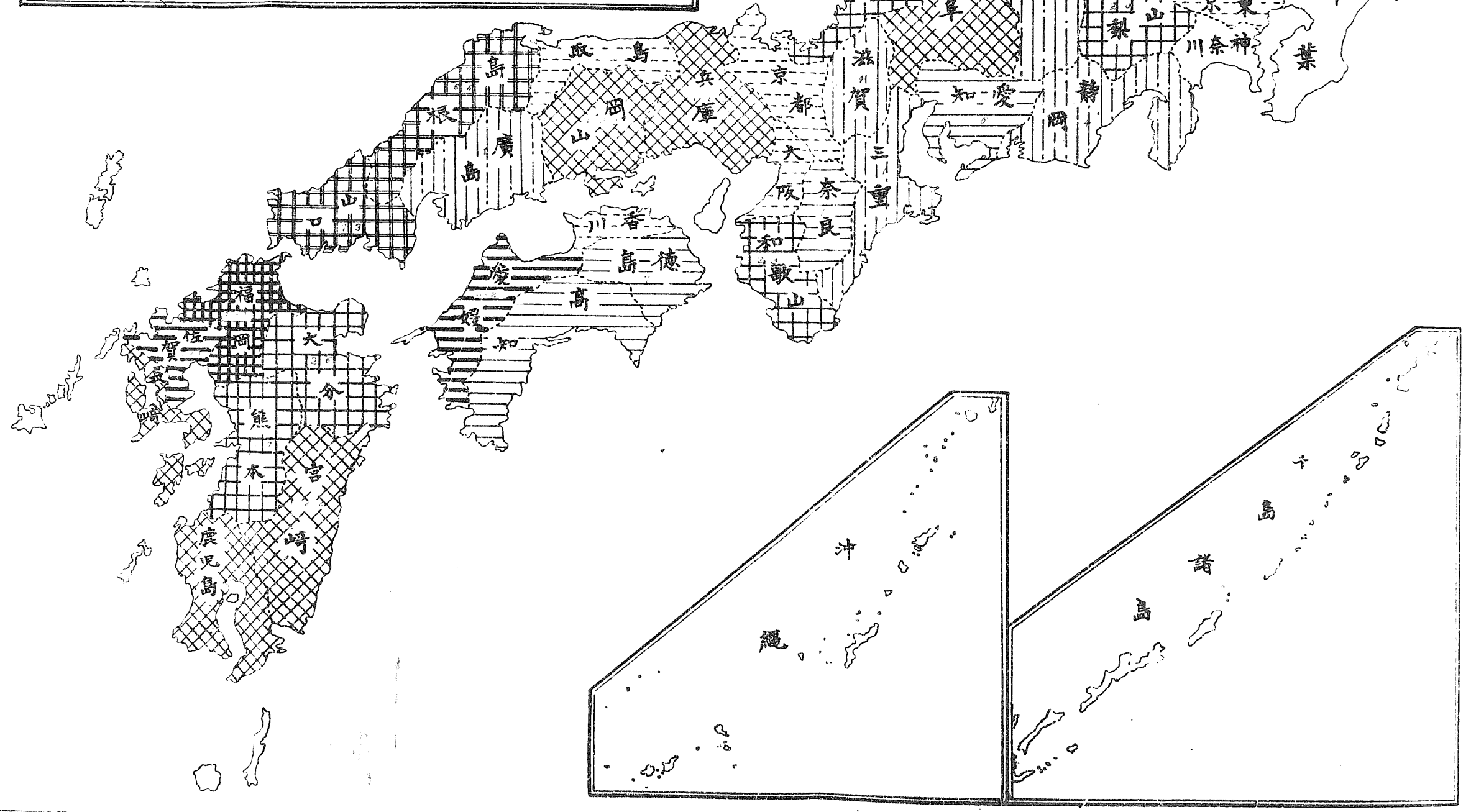
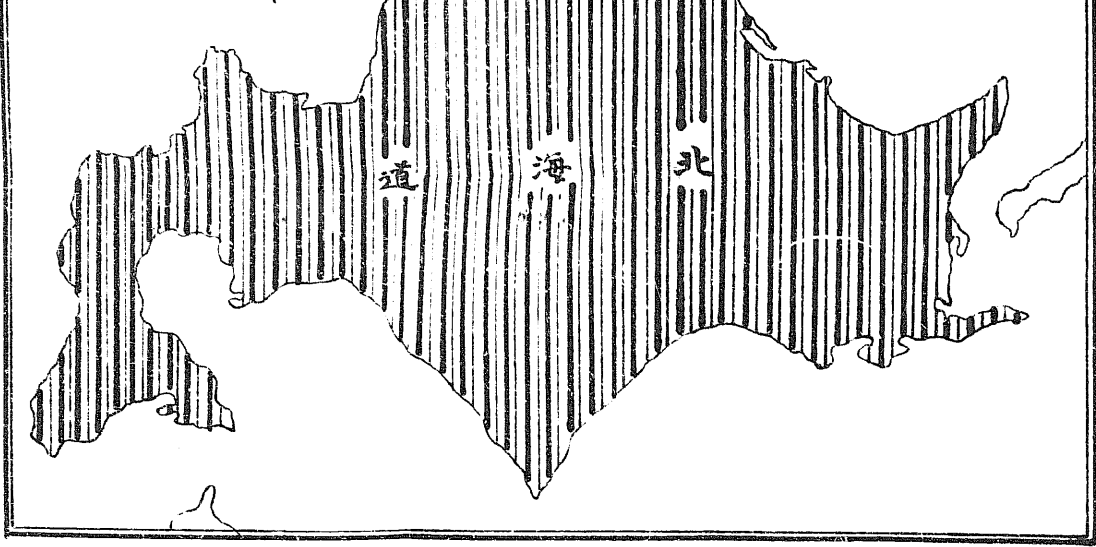
備考 圖中朱書數字ノ單位ハ萬ト示ス



## 影撮分割

# 影撮分割

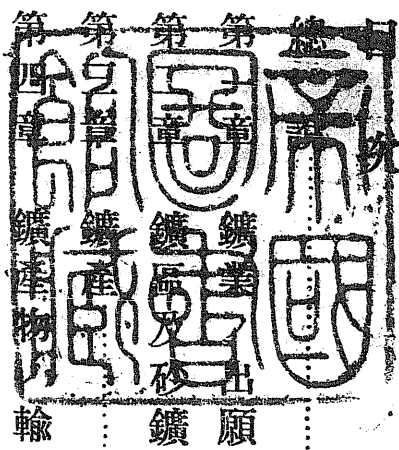
書數字ノ單位ハ萬四ヲ示ス



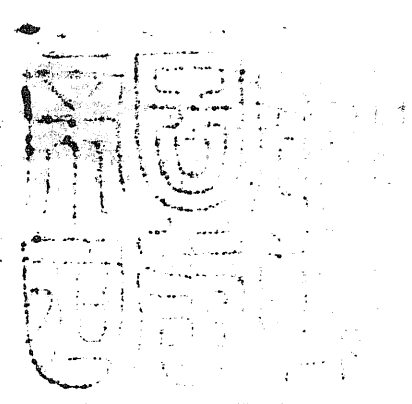


明治三十三年本邦鑛業ノ趨勢

農商務省鑛務局寄贈本



第一章 總論	一
第二章 鑛業ノ出願	一
第三章 鑛區及砂鑛採取地	二五
第四章 鑛產物ノ輸出入	五三
第五章 鑛業ニ對スル放資ノ情況	八九
第六章 鑛產物ノ市價	九七
第七章 新ニ採掘ニ着手シタル鑛山	一〇七
第八章 事業ヲ擴張シ又ハ擴張計畫中ノ鑛山	一二五
第九章 採鑛冶金術ノ進歩	一四七
第十章 鑛山變災	一五三



# 明治三十九年本邦鑛業ノ趨勢

說

明治三十九年ハ平和克復ノ後ヲ承ケ百般ノ事業振興シタルト同時ニ本邦鑛業上亦特筆スヘキ事項  
尠カラズ然レ鑛業上ノ企業ノ前驅タル出願ノ狀況ニ付テ之ヲ云ハシカ試掘願ハ前年ニ比シ十二割  
餘採掘願ハ二割弱砂鑛採取願ハ十八割餘ヲ劇増シ金、銀、銅等各種鑛物ヲ通シ何レモ其出願増加セサ  
ルハカシ然レ前年トノ比較上出願増加シタル鑛種ハ銅、硫化鐵鑛及亞鉛鑛ニシテ前者ノ試掘願ハ殆  
シテ前年ニ比シ十倍ノ後者ノ如キモ其試掘願約四倍ナリトス

又鑛產物ニ付キ之ヲ見ルニ石炭ノ產額ハ約千三百二十五萬噸餘ニシテ前年ニ比シ約百七十一萬噸  
餘ヲ増シ銅ノ產額ハ約六千六百六十萬五千五百五十七斤ニシテ五百四十一萬五千四百二十斤ヲ増シ石油  
ノ產額ハ約百五十一萬餘石ニシテ三十二萬餘石ヲ増シ鐵ノ產額ハ製鐵所產出ノモノヲ除キ銑鐵約  
五萬四千餘噸鋼鐵約三千二百餘噸ニシテ銑鐵一萬五千五百四十七噸鋼鐵百二十八噸ヲ増シ硫黃ノ產  
額ハ二萬七千餘噸ニシテ三千餘噸ヲ増シ安質母尼ノ產額ハ精製八十八萬餘斤、硫化十六萬餘斤ニシ  
テ精製五十六萬餘斤、硫化四千餘斤ヲ増シ其他鉛、亞鉛、鑛、硫化鐵、鑛、磷、鑛、亞炭等皆ナ其產額ヲ増加セル  
モ金ハ其產額七百六十六貫餘ニシテ前年ニ比シ三十貫餘ヲ減シ銀ハ其產額二萬三百三十三貫餘ニ  
シテ千七百五十七貫ヲ減セリ又錫、水銀、滿俺、砒、黑鉛ノ如キ多少其產額ヲ減少セルモ三十九年中ニ於  
ケル鑛產物ノ總價格ハ約九千七百八十六萬餘圓ノ多額ニ上リ之ヲ前年ニ比スレハ二千四百三十一

萬餘圓ヲ増加シ三割三分餘ヲ増進セリ

三十九年ニ於テハ各般ノ事業勃興シ之ニ對スル放資頗ル盛況ヲ極メタリシカ鑛業ニ對スル投資モ亦敢テ他ニ讓ラサルモノアリ同年中ニ新設サレタル鑛業會社ノ數五十九ニシテ其資本總額三千七百六十一萬圓、既設鑛業會社ニシテ増資シタルモノ九其増資總額千八百九十二萬五千圓ニシテ合計五千六百五十三萬五千圓ナリ其他鑛物ノ製鍊輸送等ヲ目的トスル會社ノ新設又ハ増資シタルモノ十ニシテ其資本總額二千二百五十萬圓ナルヲ以テ之等ヲ總括セハ無慮七千九百有餘萬圓ナリトス之ヲ三十八年末ニ於ケル鑛業會社ノ數百三十三其資本總額八千二十三萬五千百十圓ニ對比スルトキハ僅々一年間ニ於テ會社數ニ於テ約五割、資本總額ニ於テ約十割ノ増加アルヲ見ル加フルニ個人的鑛業ニシテ新規經營又ハ事業擴張ニ要シタル投資ヲ以テスルトキハ其額更ニ増大スヘキハ言ヲ須タス

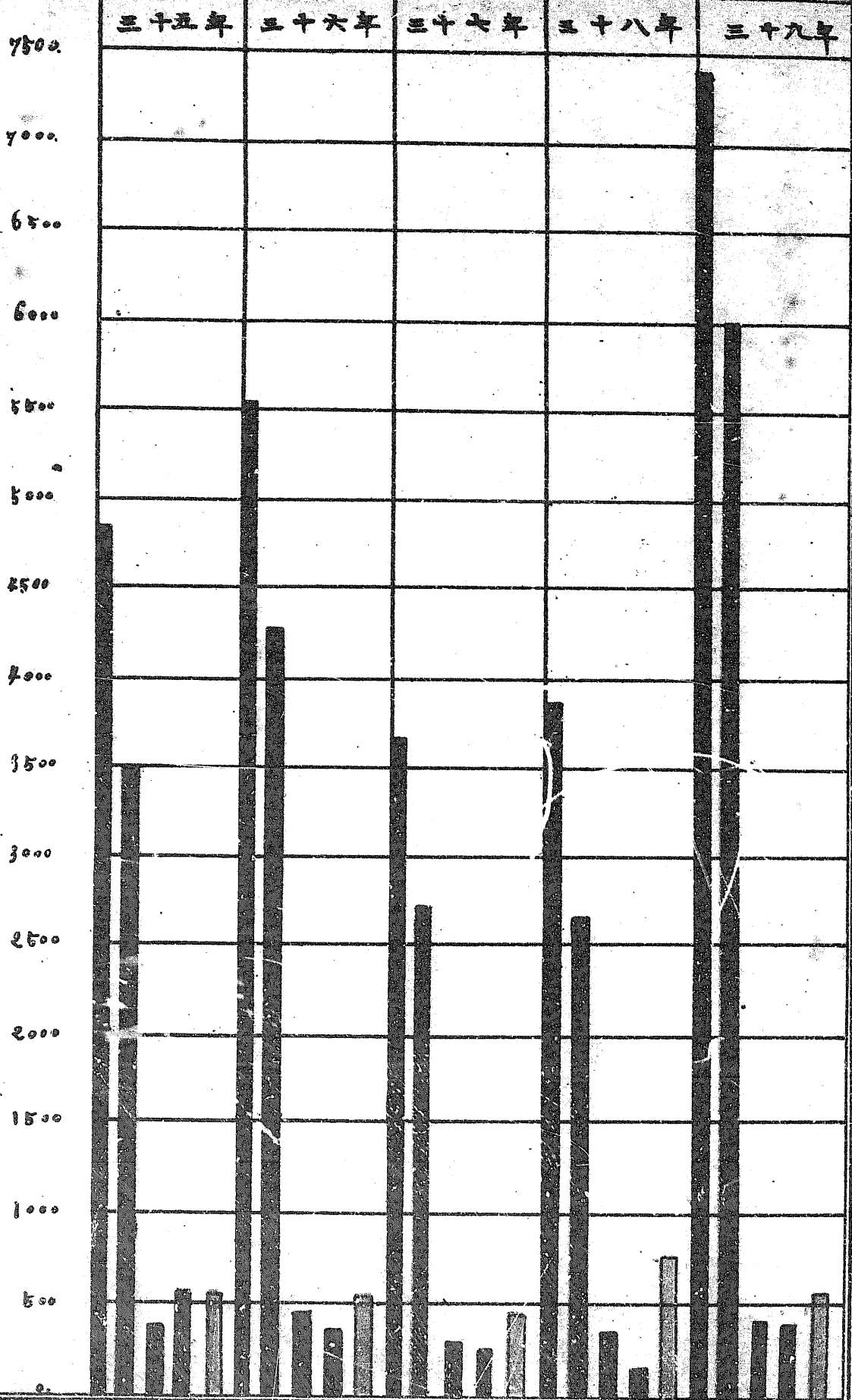
三十九年中ニ於テ新ニ探掘ニ着手シタル鑛山ハ石油以外ニ於テ石炭、金、銀、鑛、銅、鑛ヲ始メ各種ノ鑛物ヲ通シテ百二十五ノ多キニ達シ又從來探掘ニ從事セル鑛山ニシテ事業ヲ擴張シ又ハ擴張計畫中ニ屬スルモノ尠ナカラス試ニ其主要ナルモノ、數ヲ舉クレハ主トシテ金ヲ目的トスルモノ五、銀ヲ目的トスルモノ五、銅ヲ目的トスルモノ二十三、石炭山八等ニシテ何レモ將來我鑛產ノ増加ヲ來スヘキ直接ノ原因タラサルハナシ又事業上及技術上ニ於テモ近年著シキ進步ノ形跡認ムヘキモノアリ例之ハ豎坑開鑿ノ漸次増加スルニ至リタルカ如キ探鑛方法及ヒ鑛物運搬裝置ノ改善ノ如キ生鑛製鍊法ノ漸次普及スルカ如キ電氣分銅所ノ増設ノ如キ杵混汞及青化ノ兩法ヲ金鑛製鍊ニ應用スルニ至

リタルカ如キ電力ノ利用大ニ増進シタルカ如キ等皆ナ鑛業ノ進步ヲ表明スルモノニシテ亦以テ其前途ノ傾向如何ヲト知スルコトヲ得ヘシ

要之三十九年ハ本邦鑛業上極メテ多端ニシテ且ツ將來ノ發展上頗ル注目スヘキ年タルヲ失ハス以下章ヲ別テ順次開說スル所アルヘシ



總計  
新報  
探源  
計



出願件數累年比較